

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじんけいめいがくいん けいめいがくいんちゅうがっこう・こうとうがっこう				②所在都道府県	兵庫県
27～31	①学校名	学校法人啓明学院 啓明学院中学校・高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	平成26年度の在籍者総数は左記の通り。	
中学校	165	172	158	0	495		
高校普通科	239	229	204	0	672		
⑥研究開発構想名	ソーシャル・アントレプレナーシップを備えたグローバル・リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	本校の教育の特色である価値観教育、野外教育、読書教育をベースに、SGHの研究では、社会的課題への関心を高め、深い教養と、問題解決力、コミュニケーション力を培い、ソーシャル・アントレプレナーの実践により自主性・協働性・多様性を身につけるカリキュラムおよび指導法を大学・各機関との連携により開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>アントレプレナーとは、起業家を意味する。しかし、この研究開発構想では、特にソーシャル・アントレプレナーに着眼し、「ソーシャル・アントレプレナーシップ」を身につけた人材育成に焦点を当てる。それは、世界市場で自己（自社）の利益追求のみをめざすような起業家的グローバル・リーダーではない。むしろ、公と民の間に立つ、公共の精神をもちつつ、世界がその解決を希求する深刻な社会的課題を、ビジネスで解決しようとするマインド（＝ソーシャル・アントレプレナーシップ）をもったグローバル・リーダー育成を目的とする。そしてそれを実現し得るカリキュラム、指導法の開発を軸に、そのスムーズな導入を促進する学内外の多元的な教育リソースの活用による特色ある教育システムの構築を目標とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は関西学院大学継続教育校として、生徒の95%が同大学に進学する。受験型教育でなく、リベラルアーツを大切に学習を進め、価値観教育、野外教育、読書教育、英語教育、国際交流、土曜講座、日本文化発信、ボランティアに重点を置いてきた。すでに、土曜講座における大学との連携授業を実施しており、読書教育を軸に論文をまとめる探究的な取り組みを行ってきた。</p> <p>今回の「ソーシャル・アントレプレナーシップ」のための研究開発に以下の仮説を立てた。a フィールドワークやビジネスプランなどの実践的な取り組みを経て、問題解決の過程において、自主性・協働性・多様性を身に付けることができる。b 文献研究をベースにした探究型学習で思考の基礎力が養われ、問題解決に役立つ。c 教員が教育ビジョンを高いレベルで共有するとともに、大学・各機関の専門家との連携を高めながら、「教える人」から自ら「ソーシャル・アントレプレナーの手本」となるようにする。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>①この研究実践を公開授業で、実践記録を研究発表会で中等教育関係者と共有する。</p> <p>②地域（阪神間、東播地区）の小中高に報告書を送付する。</p> <p>③生徒がメディアを通じて自らの体験と学びを公開・発信する。</p> <p>④生徒と教員が共同で保護者の会に成果を発表する。</p> <p>⑤関西学院大学と連携し、研究成果を同大学総合政策学部のリサーチフェアで発表する。</p> <p>⑥本校のホームページ等での広報活動を普及・拡大する。</p>					

<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 「ソーシャル・アントレプレナーシップ」を生徒が獲得するために、少人数ゼミでソーシャルビジネスに関する課題探究を行う。ゼミでは専門家よりソーシャルビジネスに関する「知識」を得るとともに、文献研究、情報検索、編集スキル、コミュニケーション、プレゼンテーションなどの「技能」も獲得する。これらの「知識・技能」を活用し思考力・判断力・表現力を高めるために『ビジネスプラン』を<u>全生徒</u>が策定する。 さらに国内外のフィールドワーク実践により主体性・多様性・協働性を身に付ける。国内では限界集落などの深刻な課題を、海外では東南アジアの環境問題、貧困問題を、現地の人々と連携することによって、世界に貢献したいという生徒の意欲を育む。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 科目「学術研究」を少人数ゼミ方式で実施する。文献研究の基礎を学び、上記の技能を<u>全生徒</u>が確実に身につける。大学生TAによる支援も行う。ビジネススキルをソーシャルビジネスの視点で応用できるよう、<u>連携する大学</u>や、機関の専門家の指導を受け「知識」を深め、それを土台に知識・技能を活用し、思考力、判断力、表現力を高め「学術研究」の成果として、自らがビジネスプランを策定する。さらにその成果を発表する場としてビジネスプランコンテストに参加し、第三者がその成果を検証する。また<u>英語によるビジネスプランの作成</u>にも取り組む。帰国・外国人教員によるソーシャルビジネスに関する英語授業で、<u>英語によるビジネス・プレゼンテーション・スキル</u>を身に付ける。こうして海外コンテストへの応募が可能となり、国際レベルの成果が検証される。ソーシャルビジネスの起業や国内外でフィールドワークは、生徒の自主性を尊重し、グループの仲間や、現地の人々、専門家など多様な層の人々との協働が必要となるプログラムとする。この成果についても校内で発表し、大学・各機関などの第三者による検証・評価を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 教員は師弟同行を実践する。教員も生徒と同様に高い目標に向かってリスクを冒して挑戦し、さまざまな背景をもつ人々と協働し、その姿を生徒に見せることによって、ロールモデルの役割を果たす。検証評価は、教科別、学年別に教員が相互評価をする。学院理事会、保護者、卒業生などステークホルダーによる評価を受ける。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 教職員の研修（FD）、海外の交流提携校との教員人事交流に加えて、国内外の教育研究者・実践者を招聘し、教員が自己研鑽を積む。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>アドバンスト・プレースメント (Advanced Placement)</u> を導入する。AP とは大学の授業を高校で開講し、大学の単位として認定する制度である。早期単位取得が可能となるので、このメリットを活かし、留学や関西学院大学のインターナショナルプログラムに積極的に参加することができ、同大学に継続的な教育を委ねることができる。 ・ <u>継続大学 (関西学院大学)</u> への校内推薦条件である英語力は英検 2 級を下限としている。現在 2 級取得者は卒業時に 90%以上である。今後は TOEIC、TOEFL、IELTS、GTEC などの判定に堪えうる 4 技能の向上を目指す。 ・ 「学術研究レポート」（卒業研究）の抽象度を日英の 2 言語で併記する。 ・ <u>高大連携人事交流</u> 高校教員と大学教員が相互に乗り入れ授業を行い、高校の教育の質を高める。 ・ <u>関西学院専門職大学院経営戦略研究科 (IBA) と共同研究</u> (本校より研究科に客員研究員を送る) をし、<u>同大学人間福祉学部社会起業学科とも連携</u>してフィールドワークをする。 ・ ソーシャルビジネス NPO との共同プロジェクトを推進する。 ・ 多様な生徒が数多く受験する帰国生入試、海外拠点入試をさらに前進させる。